

平成 26 年 10 月 1 日

日生劇場の復興支援事業として

ひとみ座のスタッフが学生に人形劇の講座を開講

「ひょっこりひょうたん島」で知られる有名な人形劇団ひとみ座のスタッフが講師として、大学の授業「総合表現（劇）」を担当し、その成果を1月に地域の子ども達に向けて上演する。これは、震災後日生劇場が復興支援として行ってきた被災地での公演事業の延長として実現したものである。将来保育者として子どもに接する学生に、プロのノウハウを教授することによって、より広範に子どもに楽しい経験を与えることをめざして企画された。

日生劇場は震災後、子ども達の心のケアの一助として、避難所・児童センター・学校体育館等で子ども向けのコンサートやひとみ座による公演を続けてきた（今年まで、26ヶ所で実施）。震災から3年経過し生活が落ち着きを取り戻す中、回数が限られてしまう公演形式の見直しを計り、今年度は新たな形で支援を行うことになった。今回の企画は、現地で公演活動を行っている団体や、日頃子どもに接している保育者たちに、ひとみ座が持つ制作・上演のノウハウを教授することで人形劇の上演スキルを普及・向上させ、より広範に「観たい」側と「見せたい」側が現地で結びついていくことをめざしている。

近年、人間発達文化学類子育て支援クラスの卒業生の多くは、幼稚園や保育所の保育者として職を得ている。これらの卒業生が、保育現場で子ども達に人形劇を上演する機会が多い。また、保育者が地域での演劇活動の核として活躍する実態も見聞する。また福島大学の学生サークルである児童文化研究会は、毎年、地域の子供達に公演活動を行ってきた実績を持つ。そこで、このような学生が受講する「総合表現（劇）」の授業において、日生劇場のこの企画を実現させていただくことになった。

今年度後期の授業計画は別紙の通りである。台本作り、発声、人形制作、演技方、上演に至るまで、15回にわたって、ひとみ座のスタッフが指導する。学生にとっては、プロの技術を学べるまたとない機会となることが期待できる。学びの成果は1月下旬に一般に向けて公開する予定である。

（お問い合わせ先）

人間発達文化学類教授 白石昌子

電話：024-548-8115

福島大学 人形劇講座 (人形劇団ひとみ座)

1 講師陣

ひとみ座

- ・横田 左千子 (よこた さちこ) 1978年 ひとみ座入団
- ・伊東 亮 (いとう りょう) 1985年 ひとみ座入団
- ・友松 正人 (ともまつ まさと) 1989年 ひとみ座入団
- ・高橋 奈巳 (たかはし なみ) 1997年 ひとみ座入団
- ・山下 潤子 (やました じゅんこ) 2003年 ひとみ座入団

日生劇場

- ・島 啓之 (しま ひろゆき)
- ・白石 正人 (しらいし まさと)

2 学習目標

- ・人形製作や表現を楽しむことができる。
- ・自分の気持ちを表現し、相手の表現を受け入れることができる。
- ・表現が相手(共演者・子どもたち)に届くように創意工夫を加えることができる。
- ・発表会をして子どもたちに喜んでもらうことができる。
- ・学んだことを後輩たちに引き継ぐことができる。

3 学習プログラム

人形劇団ひとみ座

	日時	学習内容	講師
1	10月3日	オリエンテーション、企画説明	島啓之(日生劇場) 山下潤子
2	10月10日	表現WS、台本作り	高橋奈巳
3	10月17日	台本作り	高橋奈巳
4	10月24日	人形製作	横田左千子
5	10月31日	人形・大道具・小道具製作	横田左千子
6	11月7日	人形・大道具・小道具製作	
7	11月14日	アートマネージメントの話 基本人形操作	島啓之(日生劇場) 友松正人
8	11月21日	発声	伊東 亮
9	11月28日	発声(台本をもとに)	伊東 亮
10	12月5日	立ち稽古	高橋奈巳
11	12月12日	立ち稽古	山下潤子
12	12月19日	立ち稽古	白石正人(日生劇場) 山下潤子
13	1月9日	立ち稽古、発表会の進行の話	山下潤子
14	1月23日	立ち稽古	
15	1月30日	最終稽古(リハーサル)	山下潤子
16	1月31日	発表会、感想会、今後の話	島啓之(日生劇場) 山下潤子